別記様式第４号

2019 年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

令和 2 年　３　月　31　日

報　告　者	学科名	栄養学科	職 名	教授	氏 名	川上貴代
研 究 課 題	異文化対応の食支援を目指した教材開発に関する研究					

研 究 組 織		氏　　名	所 属 ・ 職	専 門 分 野	役　割　分　担
	代表	川上貴代	保健福祉・栄養・教授	栄養学	研究総括と分析
	分担者	平松智子	保健福祉・栄養・准教授	臨床栄養学	分析
		田淵真愉美	保健福祉・栄養・准教授	給食経営管理学	分析
		岸本妙子	保健福祉・栄養・特命研究員	食文化・消費者教育	データ収集

研究実績の概要

多文化対応を目指した食支援に対応できる管理栄養士の資質向上を目的として、管理栄養士課程での国際理解教育の現状把握と養成施設や現場で使用できる教材開発を行った。

１）管理栄養士課程での国際理解教育の現状把握（川上・田淵）

多文化対応を目指した食支援に対応できる管理栄養士の資質向上を目的として、管理栄養士課程での国際理解教育の現状把握と養成施設や現場で使用できる教材開発を行った。

管理栄養士養成課程を有する関東・関西・中国・九州地区の 5 大学の管理栄養士養成課程の学生 489 名を対象に、無記名・自己記入式アンケート調査を行った。外国人や外国語学習に対する意識態度および専門職としての食における異文化多文化の知識理解、食支援への意識に関する質問などを調査内容とした。

※ 次ページに続く

研究実績の概要	全体のおよそ9割の学生が外国語を学ぶことを重要視しており、宗教と食の関わりについての知識理解は、2012年度に行われた意識調査と比較すると高まっていた。「外国人への食指導における英語コミュニケーション能力の必要性」「外国人と接する際、食文化や宗教上の配慮を意識したい」という項目で平均得点が高かった。一方、「外国人への食指導において英語コミュニケーションがとれる」「外国人に食生活上のアドバイスができる」「外国人に食生活上のアドバイスをしたい」という項目で平均得点が低く、行動面においてネガティブな学生が多かった。国際理解意識に影響を与える要因として、コンピテンシー、国際交流経験、外国語学習意識、外国の食事情への関心、宗教と食に関する知識で明らかな関連性を示した。以上の結果より、国際理解意識を高めるためには国際交流経験をすること、外国語の学習意識を高めること、外国への食事情への関心を高めること、宗教と食に関する知識の習得などが重要だと推察された。知識の習得から実践へと繋げるためには国際に意識を向ける広い視野を形成し、学生自身が国際理解意識の必要性を感じることが重要となる。そのための教育としては、まずは国際社会における保健・医療・福祉の現状、その中での管理栄養士の役割について知ることが重要である。 ２）多文化対応への理解や態度をはぐくむための教材開発 今回の研究ではさらに、専門職における食支援での活用に向けて、さまざまな文化背景をもつ患者との相談場面について想定した栄養指導場面のスキット教材、ならびに宗教等異文化背景を持つ外国人対応教材「管理栄養士・栄養士のためのハラール食対応調理ガイド」の開発を行った。 ３）教材の試行と評価（川上・田淵・平松） ①在日外国人への教材評価とインタビュー ハラール食対応調理ガイドの評価を在日外国人へインタビューにより今後行う予定である。 ②専門科目における教材利用 今後は国際視野をもちつつ専門性を深めるための管理栄養士養成課程における国際教育の体系化が重要であると考えられた。教材利用を専門課程のどの時点でどのように利用するかは今後検討する予定である。
成果資料目録	１．池元奈津子、管理栄養士養成課程の学生における専門職としての国際理解意識の現状と関連要因の検討（令和元年　卒業論文） ２．管理栄養士養成課程における異文化理解を育むハラール食対応のための食育プログラム　岸本 妙子[重信]，平松 智子，田淵 真愉美，我如古 菜月，川上 貴代，久保田 恵，新田 陽子，井上 里加子、 日本家政学会大会研究発表71回 Page128(2019.05) ３、川上 貴代、岸本 妙子[重信]，平松 智子，田淵 真愉美，我如古 菜月、管理栄養士養成課程学生の国際理解意識の現状と関連要因、第67回日本栄養改善学会学術総会発表予定（令和2年9月2日～4日、札幌コンベンションセンター）